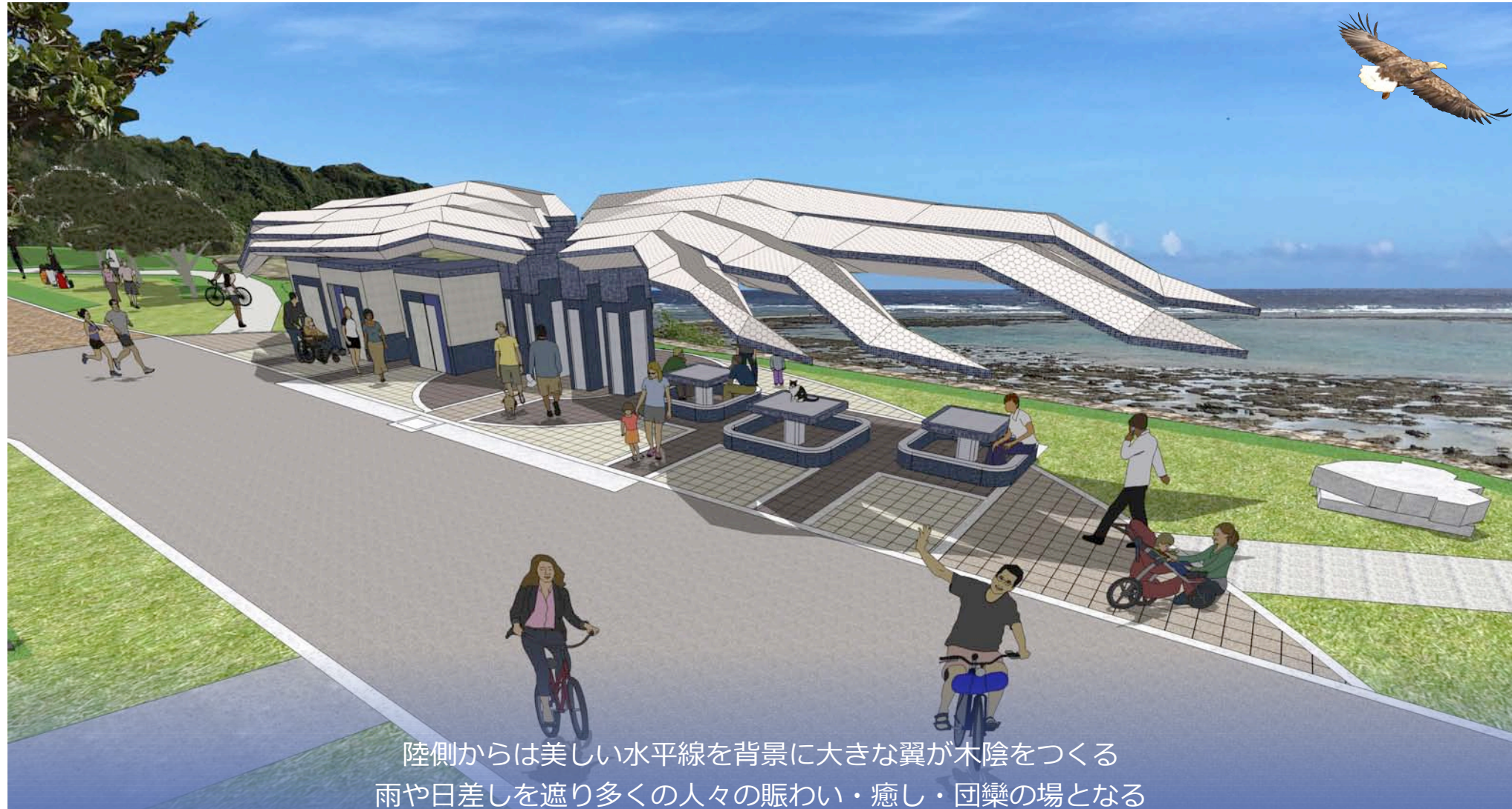
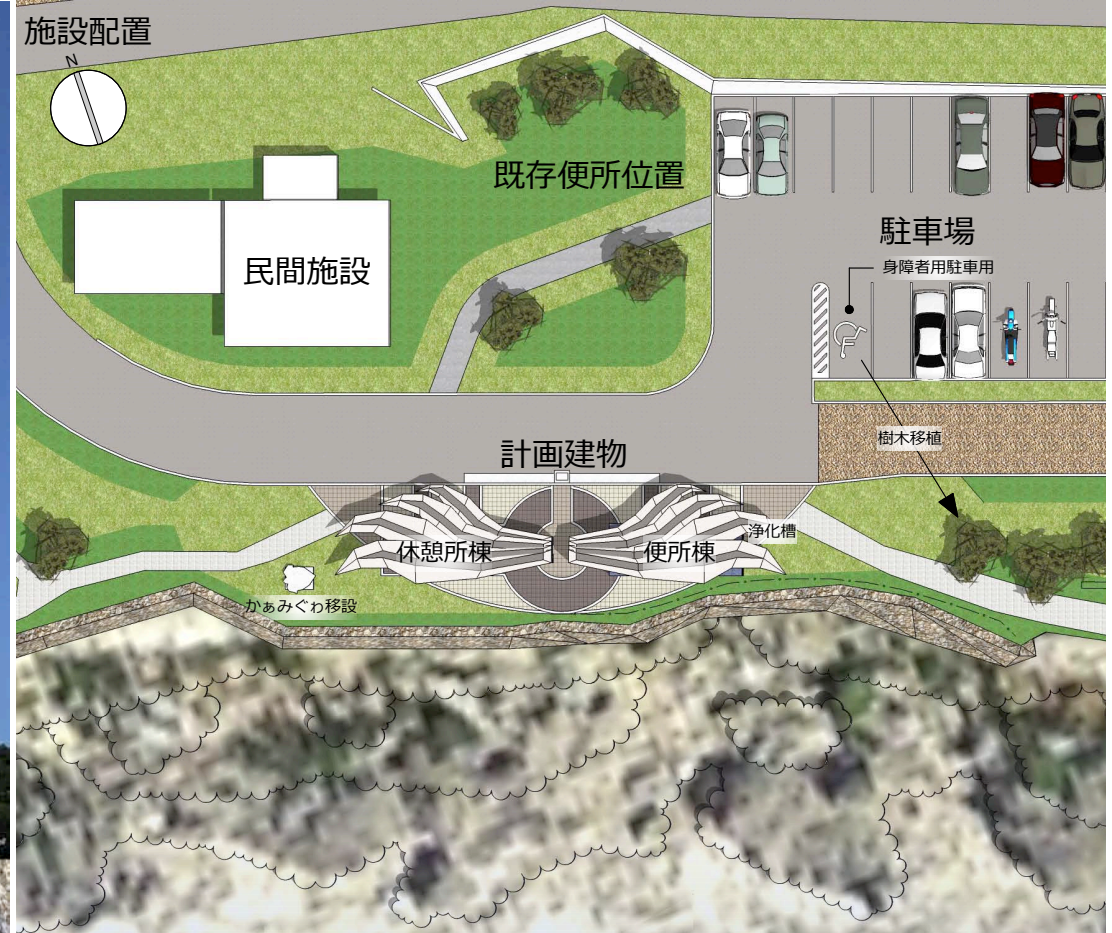


海岸から見上げると空に羽ばたく翼のシルエットが浮かぶ  
モニュメントのような翼は自然の陰影により刻々と表情を変え、目に見える楽しみも生む



陸側からは美しい水平線を背景に大きな翼が木陰をつくる  
雨や日差しを遮り多くの人々の賑わい・癒し・団欒の場となる



大度浜海岸は沖縄本島南部でも有数の美しい海岸である。  
週末になると地元の方のみならず  
県内・県外・海外の人々が集まりダイビングやシュノーケリングなど思い思いがで楽しむ賑わいの場となっている。  
その美しい海と空を繋ぐ賑わいある施設を目指した。

現在休憩所のある敷地の中央付近の海岸沿いに2枚の羽ばたく翼をイメージした大きな屋根の施設を提案する。  
その先に見える美しい海と水平線と空を繋ぐ2枚の翼。  
翼が覆う大きな屋根は、木陰のある心地よい空間を作り出し、  
人々が集う癒しの場となるだろう。

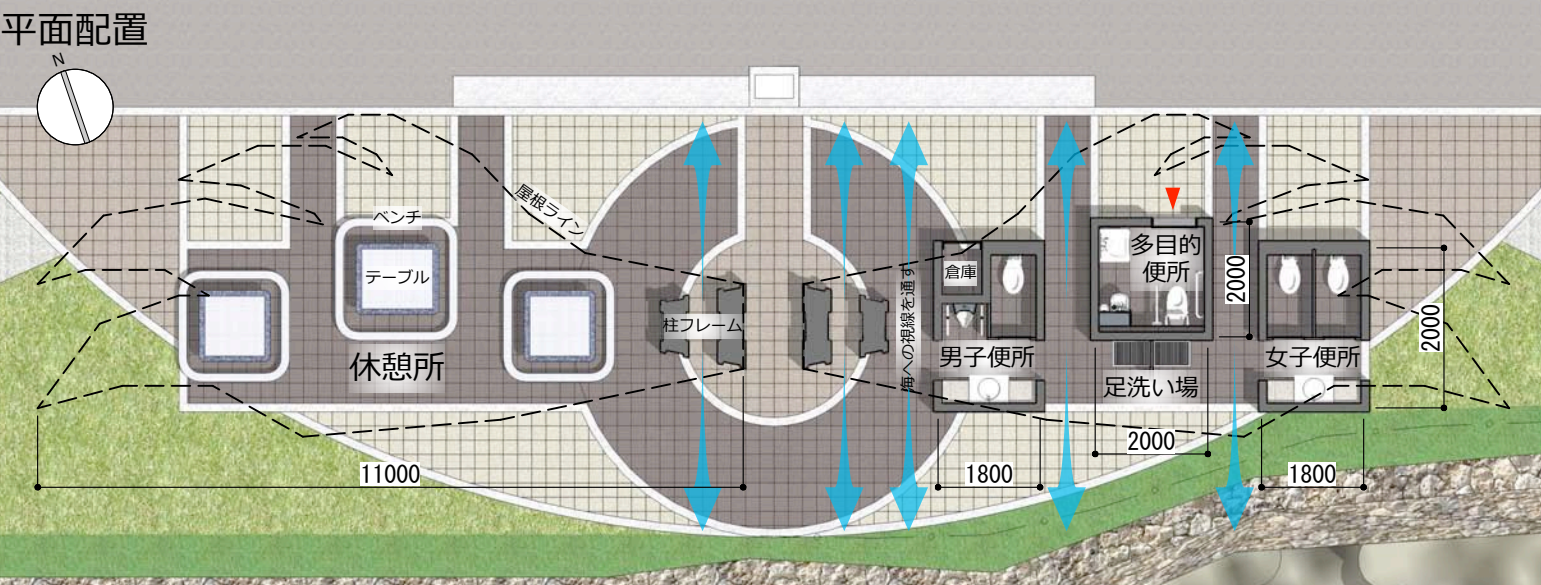
この屋根シンボリックな2枚の翼は  
この地に降り立ったジョン万次郎のように  
この地に訪れた子供達が  
世界へ羽ばたいてほしいとの思いも込めた。



便所棟

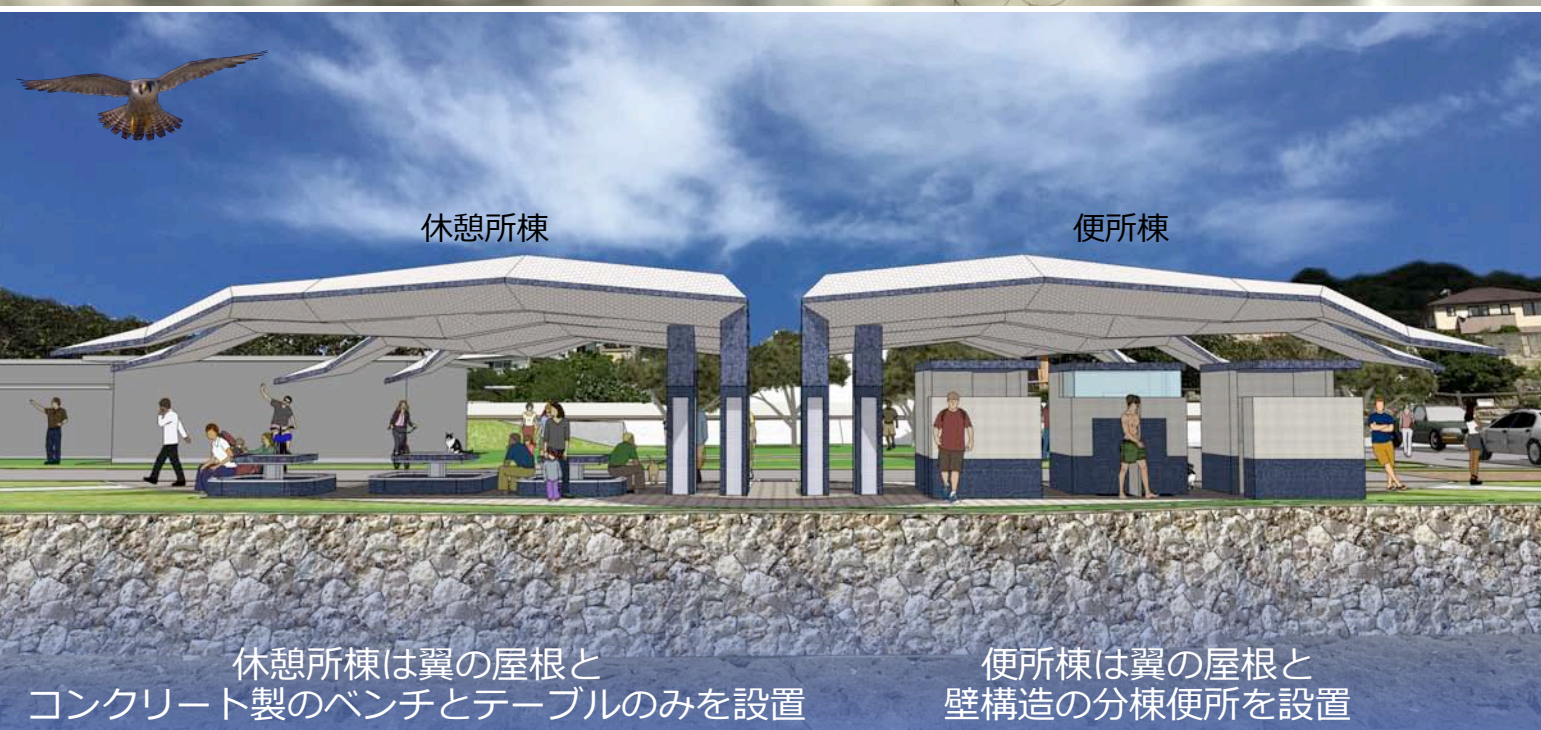
休憩所棟

美しい海と水平線が見えるよう陸側から出来るだけ視線を通し美しい風景との一体化を図る



平面配置

休憩所と便所の上部に大きな翼の屋根が架かる  
翼の屋根は中央の柱のダブルフレームから方持ちで支えられている



休憩所棟

便所棟

休憩所棟は翼の屋根と  
コンクリート製のベンチとテーブルのみを設置

便所棟は翼の屋根と  
壁構造の分棟便所を設置



伸びやかに広がるダイナミックな翼の下で人々が集い思い思いの時間を過ごす

□施設配置  
建物は敷地のほぼ中央、現在の休憩所の東側に便所棟を配置。現在の休憩所を建て替える形で西側に休憩所棟を配置した。敷地内で目につく場所であり、最も景色の楽しめる場所にシンボルになるような建物を計画する。

□計画建物  
東の便所棟、西の休憩所棟を2枚の翼の屋根が施設全体を覆う。  
2枚一対の翼が大戸浜海岸のシンボルとなるアイコン的な施設は人々の憩いの場を提供すると共に、愛着のわく施設を目指した提案をする。

□便所棟  
便所は目線を遮らないよう男子・女子・多目的を3つに分棟して視線の抜けをつくる。必要最小限な面積でシンプルな施設は維持管理がしやすく、男子・女子便所はオープンな平面とすることで死角を少なくし、防犯の面でも管理しやすい。

□休憩所棟  
翼の下にシンプルなテーブルとベンチを設置し利用者が自由に使える空間を提供する。

□構造計画  
翼の屋根は柱のダブルフレームで支えられた幅1.3~2m、長さ7~11mの4枚の底で構成され、方持ちの大スパン構造である。底の中央に梁を設け、幅・長さ方向とも先端を細くする事によって重量と強度のバランスを図り見え方もシャープにすることが出来る。また、鉄骨フレーム補強又はプレストレストコンクリートとすることでこの架構を実現する。

□耐久性の向上とメンテナンス  
海岸沿いのこの敷地は強い塩害の影響を受ける環境であり、コンクリートの中性化を防ぐことが最も重要である。  
耐久性を向上させるにはコンクリートと空気を遮断する必要があり、予算が許せば海岸沿いの敷地を考慮し全面タイル張り仕上げとしたい。  
また、定期的に建物へ散水を行うことで建築寿命を伸ばすことになるので人的な維持管理メンテナンスを確実にすることを求めたい。

□外構  
現況を出来るだけ維持し、最低限の改修を行うよう計画しコスト削減を図る。  
既存の歩道などもそのまま活用し、施設と繋げる。  
駐車場にある植栽を移植し、その位置に車椅子利用者駐車スペースを設ける。  
亀のオブジェ「かあみぐわー」は北西側の遠路沿いに移設する。  
現況の便所の位置には木陰をつくる樹木を植え、ピクニックスペースとして活用する。

□施設概要  
構造：鉄筋コンクリート造  
規模：地上1階建て 高さ4.4m  
休憩所床面積：≒30㎡  
便所棟床面積：≒30㎡  
便所有効面積（14.3㎡）

□仕上  
大屋根・壁：全面モザイクタイル張り  
トイレブース：御影石  
ベンチ・テーブル：タイル張り